

図書 紹介

理系のための研究ルールガイド

上手に付き合い、戦略的に使いこなす

著：坪田一男(慶応義塾大学医学部)

発行：(株)講談社／〒112-8001 東京都文京区音羽 2-12-21／電話 03-5395-3524／

新書判／198頁／価格 860円(税別)／2015年6月20日発行

実験、論文、学会発表、研究費、特許など研究活動には、数多くの知っておくべきルールがある。研究者として成功するには、ルールを熟知し、ルールを使いこなす必要がある。一方、研究でブレイクスルーするには、ルールを超えた大きな考え方も大切であろう。

本書では、研究者が知っておくべき基本的なルールをわかりやすく解説し、「ルールを戦略的に使いこなす」ための多くの方法について述べられている。

第1章 まずは「マイルール」を決めよう

第2章 研究者の基本ルール6

第3章 研究生活の6つのルール

第4章 実験で守るべき6つのルール

第5章 論文作成の9つのルール

第6章 特許に関する5つのルール

第7章 研究費にまつわる7つのルール

第8章 学会と研究発表の7つのルール

第9章 マスコミとネットに関する7つのルール

第10章 危機管理の5つのルール

第11章 ルールを乗り越えて

次にサブタイトルを見ていくと、第1章は、時代とともにルールは変わる／勝手に「ルール違反」決めつけない?／不条理なルールのなかでチャレンジする／ルールは「全体」でみるなどである。第2章は、ルールは絶対に守る／時間を厳守する／科学は「エビデンス」が大切／絶対に不正をしない／コンフリクト違反をしない／倫理規定に従うであり、文科省の研究活動における不正行為ガイドラインでは、「捏造」、「改ざん」、「盗用」を不正行為と定義している。第3章は、博士号取得のルール／世界で競争するのがルー

ル／サポートしてくれる人へのマナーなどである。第4章は、プロトコールは実験のキモ／実験ノートのルール／備品や試薬の管理／動物実験に関するルールなどである。第5章は、論文を書くときの基本ルール／英語論文を書くときのルール／投稿ジャーナルを決める／共同研究の前に決めておくこと／著作権の基礎知識／コンフリクトの最終確認／論文はリバイスされると心得るなどである。第6章は、特許は誰のものか／特許出願人は大学、発明者は研究者などである。第7章は、研究費申請の基本ルール／研究費もトレンドがある／やっぱり「業績」で評価される／不正使用は研究人生を絶つ／絶対個人の収入にしないなどである。第8章は、学術集会はパーティー／研究発表をするときの注意点／学会誌から原稿を依頼されたら／査読を依頼されたらなどであり、原稿依頼や査読はできるだけ引き受けてほしいものである。第9章は、プレスリリースのルール／取材依頼が来たら／マスコミ対策のメリットとデメリット／SNSで気をつけたいこと／メールのルールを考えるなどである。第10章は、謝るときのルール／ヒトの不正を見つけてしまったら／ルールを守ればルールに救われるなどである。第11章は、仲間とライバルを大切にす／研究領域にルールはない／異分野と積極的につながる／自分の領域に異分野を取り入れるなどである。

チームやグループで研究活動することが主流となっている昨今、どうしてもルールをわきまえることが必要である。研究者が知っておくべきルールの基本と戦略的に使いこなすための58のルールを「研究者の基本ルール」「研究生活のルール」「実験で守るべきルール」「論文作成のルール」「特許に関するルール」「研究費にまつわるルール」「学会と研究発表のルール」「マスコミとネットに関するルール」及び「危機管理のルール」に分けて紹介されており、若い研究者である会員諸氏には一読の価値がある。(学会事務局)